

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールA(Seminar of Study A)		授業コード	C172413
担当教員名	菅 雅幸		科目ナンバリングコード	L31204
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	全コース 選択 <input type="checkbox"/>	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	何を自分の職務とするか、自身の人生の目標を見定めながら研究室を選択し、それぞれの課題に取り組んでください。			
受講心得	それぞれの専門分野に関連する全科目			
教科書	指定なし			
参考文献及び指定図書	適宜指示します。			
関連科目	専門分野に関連する全科目			

授業の目的	3年前期ですが、まだ、専門科目の講義が残っている段階で、総合的な建築の指導を行うのは早いと思われるのですが、進路を見据えた、実践に近い課題に取り組んでもらいます。 進路としては、住宅、施工、設計、企画開発等、様々ですが、扱うものは環境条件、計画、構造、設備、法規等、基本的には共通しています。できるだけ、自分の将来を創造できるよう、積極的に取り組みます。
授業の概要	実在する建築物を3DCADで描くことにより、建築の計画、環境、構造、設備、ディテール、法律等がどのように関わっているのかをチェックし、勉強します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：課題説明(環境)(土地利用) 課題についての説明を行います。課題となった建築の敷地、土地利用、環境などについて説明します。	
第2週：作成開始(プランニング・プロセス) 課題の作成を始めてもらいます。CADで図面を書いてもらいながら、この建物のプランニングやプロセスなどについて説明します。	
第3週：課題作成(法規チェック1) 課題の建物に対する法規の説明を行い、それぞれチェックした後、課題作成を行ってもらいま	
第4週：課題作成(法規チェック2) 課題の建物に対する法規の説明を行い、それぞれチェックした後、課題作成を行ってもらいま	
第5週：課題作成(構造1) 課題の建物に対する構造の説明を行い、それぞれチェックした後、課題作成を行ってもらいま	
第6週：課題作成(構造2) 課題の建物に対する構造の説明を行い、それぞれチェックした後、課題作成を行ってもらいま	
第7週：課題作成(構造3) 課題の建物に対する構造の説明を行い、それぞれチェックした後、課題作成を行ってもらいま	

第8週：課題作成(設備1)		
課題の建物に対する設備の説明を行い、それぞれチェックした後、課題作成を行っても よいです。		
第9週：課題作成(設備2)		
課題の建物に対する設備の説明を行い、それぞれチェックした後、課題作成を行っても よいです。		
第10週：課題作成(図面完成)		
課題の図面を完成させてもらいます。		
第11週：課題作成(3D化1)		
図面から3Dの作成を行います。		
第12週：課題作成(3D化2)		
図面から3Dの作成を行います。		
第13週：課題作成(3D化3)		
図面から3Dの作成を行います。		
第14週：課題作成(3D化4)		
図面から3Dの作成を行います。		
第15週：課題の提出		
課題を完成させて提出してもらいます。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III:地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	実物を見たり、雑誌等でどういものか視覚を通じて確認していかざるを得ません。積極的に取り組むことが問題解決の早道です。
【知識・理解】	建築業界は広範囲なので、選り好みせず、積極的に調べる。
【技能・表現・コミュニケーション】	CADを使うので、これまで指導したソフトを駆使できるようにする。
【思考・判断・創造】	オリジナルなものを創造するためには、手本になる作品を徹底的に研究することから始まります

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	10点	

【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	10点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	毎回行う課題を必ず出席して行っていき、完成させて提出すること。
発表・その他 (無形成果)	疑問に思ったことを積極的に質問すること。